

# 「1年単位の變形労働時間制」で解決するのか？

## ～中教審が教員の「働き方改革」を答申～

**北多摩西ニュース**



**No.9**

国分寺市光町1-40-12  
Tel 042-576-1161(代)  
Fax 042-575-0529  
E-mail: kitanisi@crux.ocn.ne.jp  
ホームページ: http://kitanisi.org/  
東京都教職員組合  
北多摩西支部情宣部

**全教職員配布**



今年度当初  
280人の欠員

「辞めたければ辞めろ、代わりはいっぱいいるんだ！」

かつて多摩地区の新採研で教育委員会からこういう発言があったと聞きました。

それから十数年後の現在、都では今年度当初に小中学校で280名の欠員がありました。いま教員のなり手が減り、教員免許を取っても教員にならない人が増えています。

昨年度の都の小学校教諭の合格率は！・8倍でした。今年度はさらに低くなるのではないかと言う声さえあります。

講師が  
見つからない！

現在も教員が足りない状況は続いています。講師がなかなか見つからないと支部へも相談があります。

「100人ぐらいの人にあたっても代わりが見つからない」という声をあちこちで聞きます。なかには人材紹介会社を利用してやっと見つかったという話まであります。

こういう状況のなかで、都教委は退職した人に再度学校で働くよ

う呼びかけています。しかし、現在63歳以下の方は、またお金を払って講習を受け、免許を更新しなくてはなりません。

そこまでして免許更新をしたくないという人も多く、今後ますます講師の引き受け手が少なくなる可能性があります。

短時間で成果をあげた教員を評価!?

1月25日中教審は教員の長時間労働の是正に向けた答申を決定し、文科相に提出しました。

教職員定数の拡充や教員1人あたりの授業時数削減を求める意見も出しましたが、答申には反映されませんでした。

一方で、学期中の勤務時間を長くし、その分を長期休業中に振り替える「1年単位の變

形労働時間制」の適用を提言しました。また、短時間で成果をあげた教員を評価する人事制度も提言しました。

これでは見た目の残業時間が減るだけで、現状は変わりません。また、協力・共同を否定するような「成果主義」で競わすことが、現状の長時間過密労働解消になるとは思えません。

まず、業務を減らすべき

「特別の教科 道徳」や英語の拡大など指導要領による負担、「オリ・パラ」などさまざま課題の現場への押しつけ、まずそれらを減らしていくことが国や都のまずやるべきことではないでしょうか？教師になりたいという若者を増やすために。

### 学校の窓

「先生、私、都立の一般入試を受けるのやめようかな？」授業が終わった直後、物静かだまじめなNさんが、私に話しかけました。都立推薦入試の発表翌日、土曜授業の休み時間です。▼170名中100人以上が受験し20数名が合格、Nさんは落ちました。「母は私立でいいよと言ってくれているし、第二希望にしていた私立高校がすぐ気に入っていたから、でも、親に負担をかけるし、都立一般を受けた方がいいですか？」とNさん。▼推薦で落ちた都立高校に一般入試で合格する力は十分に

あるNさんですが、落ちたショックで深く傷ついているのだと感じました。「君が受けようとしている私立高校は君にピッタリだよ。お母さんがOKしてくれているんだから、君に合った学校に進んでいいんじゃないか」と言うのと、本当に嬉しそうに「先生ありがと」と言いました。▼合格基準の分からない推薦入試で傷つく子どもたち。私たちがその思いにしっかり向き合うことの大切さを改めて思います。(T・M)